

失われる腸内細菌集めよう

どの人の体にも約100兆個、計2キにも及ぶ細菌がすんでおり、さまざまな臓器に影響を与えているほか、肥満やアレルギーなどの体

高地など特殊な環境に住む人の便を集め、腸内細菌が人の環境適応能力や健康にどんな影響を与えているか調べる研究を長崎大の山本太郎教授（国際保健学）らが始めた。食事の西洋化や抗生物質の影響で、現代人の腸内細菌の種類が急速に減っている可能性があり、今も昔ながらの生活をしている人の便の保存も急ぐ。

長崎大教授ら ネパールで便採取

人類は環境変化に対して、進化による「生物学的適応」と、薬や蚊帳の発明による「社会的適応」を利用して健康を維持してきた。

高地に適応した人は、食生活の変化によって糖尿病になりやすいとの指摘があり、細菌がどんな影響を与えているかも調べたいという。

人類は環境変化に対して、進化による「生物学的適応」と、薬や蚊帳の発明による「社会的適応」を利用して健康を維持してきた。

る。便に含まれる遺伝情報を調べ、細菌の構成を特定する。

環境適応能力影響を調査

山本教授らは10月、調査地の選定のためネパールを訪問。来年から、人類学や生物学の専門家と協力し、食べ物が乏しく、酸度も薄い厳しい環境で暮らしている人から便を収集する。報告がある。

ネパール・アンナプルナ連峰の麓に住む子どもたち（山本太郎長崎大教授提供）

